

2019年
安全報告書



大山観光電鉄株式会社

目 次

1	経営責任者からのメッセージ	1
2	安全基本方針等	2
	【1】当社の安全基本方針	
	【2】当社の安全行動規範	
3	安全管理体制と方法	2～4
	【1】安全管理体制	
	【2】安全管理方法	
	【3】経営責任者の現業巡視	
	【4】従業員との対話	
4	安全目標と安全重点施策	4～5
	【1】安全目標	
	【2】異常時総合訓練	
	【3】教育訓練状況	
5	事故等の状況と再発防止の取り組み	5
	【1】鉄道運転事故等	
	【2】災害（地震や暴風雨、豪雪など）	
	【3】輸送障害（30分以上の遅延や運休）	
	【4】インシデント（事故の兆候）	
6	行政指導等に対する措置の状況	5
7	安全確保のための取り組み	6～7
	【1】2018年度	
	【2】2019年度	
8	お客様等とのコミュニケーション	7～8
	【1】関係機関との協働	
	【2】お客様の安全確保	
	【3】お客様等からの意見・要望	
	【4】その他	

1 経営責任者からのメッセージ

「2019年安全報告書」の公表にあたり

平素より、大山ケーブルカーをご利用いただきまして、誠にありがとうございます。この「安全報告書」は、鉄道事業法第19条の4項に基づき、安全輸送に対する当社の取り組みについてご報告するものです。

当社は、小田急グループの『お客様の【かけがえのない時間】と【ゆたかなくらし】の実現に貢献します』というグループ経営理念、および当社の『大山それは“出会い”の山“ふたたび廻り会える喜びをあなたに”それが私たちの願いです』という社是に基づき、輸送の安全を第一とし、大山へお越しのお客様に多くの「上質と感動」をお届けすることを心がけております。また、企業の社会的責任を果たすために、コンプライアンスの観点で、日々の業務に関して基本に忠実に、ルールを守り誠実に行動することを徹底し、取り組んでおります。

当社では2014年から2017年にかけて、橋梁や土留擁壁の補強、主電動機のオーバーホールなど、大規模な設備更新工事を実施いたしました。この期間中、2015年5月から4か月半の営業休止をさせていただき、全線のレール・枕木の交換および電気設備の改修工事を実施するとともに、50年ぶりにケーブルカーの車体を更新し、同年10月に運行を開始いたしました。その後も、安全関連の設備投資を継続して実施し、従業員一丸となって安全で安心な運行に取り組んでおります。

結びに、この「2019年安全報告書」をご一読いただき、当社の【安全への取り組み】について、皆様の率直なご意見、ご助言などを賜りますようお願い申し上げます。

2019年9月

大山観光電鉄株式会社
取締役社長 金子 茂浩



2 安全基本方針等

【1】当社の安全基本方針

- (1) 輸送の使命は安全輸送であるとの認識に立ち、全ての事業に優先する
- (2) 施設・車両等の整備は、万端怠りなく実施し、安全の確保に努める

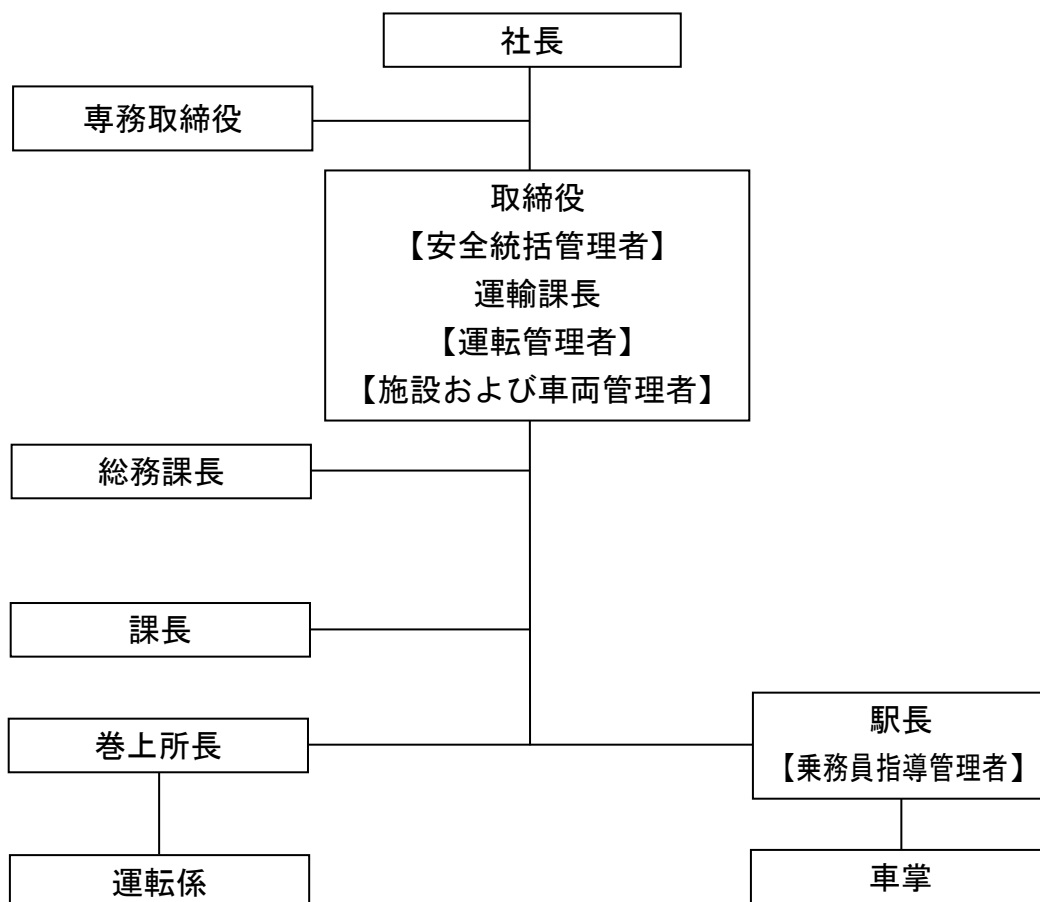
【2】当社の安全行動規範

- (1) 輸送の安全に関する状況については、常に把握し理解するよう努める
- (2) 情報は透明性を確保し、漏れなく迅速、正確に伝える
- (3) 常に問題意識を持ち、必要な変革に果敢に挑戦する

3 安全管理体制と方法

【1】安全管理体制

当社は、以下の安全管理体制の下、各々の役割に応じた機能を発揮することでお客様の輸送の安全を確保いたしております。



役 職	役 割
社 長	輸送の安全の確保に関する最終的な責任を負います。
取締役 【安全統括管理者】	鉄道施設、車両、運転取扱いの安全性および相互の部門間の整合性を確保するとともに、安全確保を最優先し輸送業務の実施および各管理部門を統括管理いたします。
運輸課長（取締役委嘱） 【運転管理者】 【施設および車両管理者】	安全統括管理者の指揮の下、運行計画の設定および変更、乗務員の運用、列車の運行の管理、運転係および乗務員の育成ならびに資質の保持その他運転に関する業務を管理するほか、施設および車両の維持管理に関する事項を統括いたします。
駅 長 【乗務員指導管理者】	運転管理者の指揮の下、駅務・車掌の資質の維持に関する事項を管理いたします。
巻上所長	運転管理者の指揮の下、運転の資質、ならびに施設・車両の維持に関する事項を管理いたします。

【2】安全管理方法

（1）安全マネジメント体制

安全管理規程において、社長を最高責任者とし、安全確保に関する業務を統括する「安全統括管理者」を中心に、月1回安全マネジメント会議を開催し、監督官庁よりの情報発出はもとより安全輸送に関わる事項の審議取り纏めから対策を講ずるまで展開を図ってまいりました。

輸送障害等の対応については、安全マネジメント会議において多面的な分析と対策の協議を行うなど全社一体の取り組みを実施し、その成果が着実に末端まで浸透するよう安全管理に反映させてまいりました。

（2）安全文化の醸成

安全マネジメント体制の確立のため2011年度にヒヤリハット情報の収集のための教育を実施し、2012年度よりヒヤリハットの重要性とKYMの重要性を再認識した安全文化を醸成する指導と展開に取り組んでまいりました。

その結果、ヒヤリハットの提出件数が徐々に増加し、その浸透が全体的に行き届いてきました。

【3】経営責任者の現業巡視

経営責任者である社長は、定例的に現業巡視はもとより年度当初にコミットメントで基本方針を発信し、末端までの浸透活動を行っております。また、事故等の発生の際は現場での陣頭指揮をするなど企業の果たす社会的責任を全うすべく対処しております。

【4】従業員との対話

企業の果たすべき社会的責任を履行するため、社員教育の一環において、コンプライアンスに準ずる公益通報者保護法を周知した上で、経営責任者の現業巡視の際、従業員より意見聴取を行っております。

4 安全目標と安全重点施策

【1】安全目標

2018年度の安全目標は【 速度超過による障害「0（ゼロ）」と運転技術の向上 】および【 車掌業務における知識・技能の向上 】とし、あらゆる安全輸送に関わる“人”の潜在要因を抽出し、積極的に改善策に着手して運転事故・輸送障害のゼロを達成するよう、この一年間取り組んでまいりました。

【2】異常時総合訓練

鉄道テロや事故発生時の対応力を向上させるため、ケーブルカー走行中に、不審者による列車妨害に起因する事故が発生したことを想定した異常時総合訓練を実施いたしました。

本社員および現業員が参加し、異常時の連絡通報、お客様の避難誘導、救護処置等の訓練を行い、迅速な対応が図れるよう従業員一丸となって取り組みました。

今後も、訓練を重ねて異常時の迅速な対応と質の向上を図ってまいります。



異常時総合訓練

【3】教育訓練状況

(1) 社内教育

- ① 事故処置訓練 地震発生時の取扱い、停電発生時の取扱い等
 - ② ヒヤリハット情報の収集・活用法（リスク管理）
 - ③ 運転教育、車掌教育
- その他、年間教育訓練計画に基づき実施

(2) 社外研修

- ① 日本ケーブル株式会社での技術研修 電気設備取扱研修

(3) 教育の主たる実績と反映

① 社内教育

ヒューマンエラー防止と異常時を想定した各種訓練を主に実施してまいりました。

ヒューマンエラー防止に繋がるヒヤリハットの収集を積極的に行い、その結果徐々にではありますが提出件数が増加して、安全のための情報共有が浸透してきました。

また、各種訓練は、迅速な異常時対応と復旧を主眼に実施し、安全かつ迅速に復旧できるよう、従業員一丸となって研鑽に努めてまいりました。

② 社外研修

ケーブルカーの電気設備の技術研修に参加し、技術力向上を図りました。

また、小田急グループ全体で実施している監督者研修等に参加し、その研修内容は、あらためて社内教育で従業員へ周知、反映いたしました。

今年度も、種々の研修を計画、受講して一層の安全マネジメントの充実へと反映させてまいります。

5 事故等の状況と再発防止の取り組み

【1】鉄道運転事故等

2018年度、鉄道運転事故等の発生は、0件でした。

【2】災害（地震や暴風雨、豪雪など）

2018年度、自然災害に伴う事故等の発生は、0件でした。

【3】輸送障害（30分以上の遅延や運休）

(1) 降雨量が規制値を超えたため遅延1件（最大35分）および運転見合せ6件（計30本の運休）

(2) 主幹制御器の接点不良による運転見合わせ1件（計22本の運休）

3カ月検査時に接点を清掃することとしました。

(3) 常用制動機への異物混入による遅延（最大10分）および運転見合わせ1件（計14本の運休）

異物が混入した箇所を閉塞するとともに、運転台に常時置く必要のある小物には落下防止を図ることとしました。

【4】インシデント（事故の兆候）

2018年度、インシデントの発生は、0件でした。

6 行政指導等に対する措置の状況

2018年度、監督官庁である国土交通省からの行政指導はありませんでした。

7 安全確保のための取り組み

【1】2018年度

(1) 取り組みと実績

総額約36百万円を投資し、主に下記の工事を実施いたしました。

① 索条（ロープ）交換工事

ケーブルカーの“命綱”である索条（920m）を新しいものに交換しました。



施工中（新旧索条接続・置換）



施工中（旧索条撤去）

② 女坂隧道翼壁補修工事

隧道入口の劣化した翼壁コンクリートを補修しました。



施工前



施工後

③ 大山寺駅跨線橋他塗装工事

塗装の劣化が著しかったため、跨線橋全体の塗装を行いました。



施工前



施工後

【2】2019年度

総額約30百万円を投資し、主に下記の工事を実施いたします。

- (1) 各駅ホーム調査および補修工事
- (2) 索条切詰工事
- (3) 落石防護金網補強工事
- (4) 誘導滑車製作
- (5) 台車枠磁粉探傷検査

8 お客様等とのコミュニケーション

【1】関係機関との協働

当社は、大山へお越しいただくお客様に楽しんでいただき、癒しのひとときをお過ごしになられますよう万全な運行体制で臨んでおります。万一の場合には、伊勢原市消防本部との【救急救助活動の連携に関する覚書】に基づき、業務支援体制を整え救助活動の支援運行を果たすよう取り組んでおります。

【2】お客様の安全確保

お客様の歩きながらの携帯電話使用に関して注意喚起を実施するなど、ホーム上の安全確保に努めてまいりました。今年度も、お客様による事故の未然防止を図るよう努めてまいります。

【3】お客様等からの意見・要望

関係各社との協働により、大山へお越しいただくお客様からの率直な意見・要望を聴取し、駅構内施設の改良等へと反映しております。

【4】その他

本報告書に関わるご意見、ご感想やご要望など下記の連絡先にお寄せください。

大山観光電鉄株式会社

(本社) 電話 : 0463-95-2135 FAX : 0463-95-2482

(平日 9 : 00 ~ 12 : 00、13 : 00 ~ 17 : 30)

(大山ケーブル駅) 電話 / FAX : 0463-95-2040

(平日 9 : 00 ~ 16 : 30 土休日 9 : 00 ~ 17 : 00)

住所 : 〒259-1107 神奈川県伊勢原市大山 6 6 7